

ごあいさつ

神奈川県立近代美術館が、名称に「近代」を冠した日本で最初の公立美術館として開館したのは1951年11月のことでした。今年はちょうど60年目の記念すべき年になります。そのときわたしはまだ生まれていなかったのですが、もちろん現実感乏しいのですが、敗戦はひとびとの暮らしに大きな影を落としていました。日本は敗戦国であり、占領下にあったのです。衣食住もいまに比べたならば充分ではなかったと思われまふ。そのようなときに、現在からみれば小規模とはいえ、本格的な美術館と音楽堂（桜木町の紅葉坂にある県立音楽堂です）を神奈川県下に作ろうと決意したひとたちに改めて敬意を表したく思います。

戦後の経済成長は、幾度も曲がり角があったわけですが、当館の場合にも、1984年に鎌倉別館を、2003年に葉山館を施設として備えることを可能にしてくれました。現在、神奈川県立近代美術館という一組織が三つの建物を運営しています。鎌倉と葉山という、自然と文化に恵まれた環境のなかで、都会型の美術館とは、かなり異なった個性的な活動を展開してきました。

2011年3月11日に、東北太平洋沿岸部と関東地方に大地震、それに続いて福島原発事故が発生しました。現在もなお憂慮すべき事態が続いています。たいへん心が痛みます。一刻も早い解決と、復興を願わずにいられません。作品の避難や修復、あるいは人的支援など、当館も、美術館として貢献できることに取り組みたく思います。

地震発生の日、当館では、鎌倉館で、辻晋堂、鎌倉別館で、山下菊二、葉山館で、エル・アナツイという充実した三つの個展を開催していました。幸い、お客様も、スタッフも、作品も、建物も無事でした。収蔵作品にも損傷はありません。翌週には展覧会を再開することができました。皆さまには、たいへんご心配をおかけいたしました。

その後、三つの展覧会が終了するまでに、計画停電があり、交通が不便であったにもかかわらず、2000人以上の方に展覧会をご覧いただくことができました。いくつかのブログで、アナツイ展を観たあとに、海岸線を歩いて逗子駅まで帰った、という記事を読みました。1時間以上はかかったのではないのでしょうか。記事にはいずれも楽しかったと書いてありました。

美術、そして、広く芸術のあたえてくれる、根源的な力を信じて、館長としてのバトンをしっかり受け取りたいと思います。

2011年4月1日

神奈川県立近代美術館長 水沢勉